

# 第17回 東日本大震災子ども支援意見交換会

—震災から丸7年子どもたちと考える継続的な支援—

2018年3月8日（木）11時～13時  
衆議院第一議員会館 多目的ホール

東日本大震災から丸7年を迎えようとしています。被災した子どもたちが、大人になり、親になる時期も迎えています。震災から7年を経た今、被災地域の復旧がなされ、ふるさとが大きく変化する中で、子どもたちと家庭や学校も変わってきています。

小学校には、震災の跡形もなくなった地域で育った子どもたちが入学してきています。被災体験だけでなく、記憶もまた違う子どもが学校や地域で過ごすようになってきました。全国各地や世界中に転居した子どもたちのその後の暮らしはよりつかみきれなくなり、ふるさとや震災を思い出せなくなってしまった子どもたちが育っています。

震災は見えなくなれば忘れられるものなのでしょうか。

子ども若者は、一人ひとり大切な人生をおくるなかでたびたび被災体験が沸き上がってきます。阪神淡路の震災から23年を経た女性はその悲しみや苦しみが形を変えながら続くことを語っています。

被災地から次々と支援者がいなくなり、支援が減っていく中で、これからも継続して用意し、また変わって用意しなければならないものは何でしょう。

7年間の継続的な支援の中で高校生や大学生となった被災した子どもたちは、被災当時のことや復興のことなどについて語ることによって考え、生まれ育った地域のために、様々な取り組みを始めています。震災を経験した高校生・大学生の話を聴きながら、これからの継続した子ども支援のあり方について、東日本大震災から8年目を迎える日に子どもたちと一緒に考えたいと思います。

私たちは震災から20年を最低限の支援し続ける必要な日々と考え、継続的な支援の仕組みを仙台で立ち上げに協力をしてきました。当日ご報告をさせていただきます。皆さんと一緒に充実した活動を展開させたいと考えています。どうぞ、ご参加ください。

## プログラム

- 1 8年目の子ども支援に求められる視点と課題  
森田明美（東日本大震災子ども支援ネットワーク事務局長 東洋大学）
- 2 被災地での20年子ども・若者支援の活動の立ち上げ  
足立智昭（東日本大震災子ども・若者支援センター代表理事、宮城学院女子大学）
- 3 成人になった被災地の若者たちの活動  
南三陸町等で被災した子どもたち project M
- 4 被災地での高校生たちの活動  
山田町ゾンタハウスZ00 café
- 5 被災地における子ども・若者支援活動  
ひとり親家庭支援（郡山市）、若者支援活動（南相馬市予定）
- 6 関係省庁からの報告  
復興庁・厚生労働省・文部科学省・内閣府（予定）
- 7 意見交換

司会進行：森田明美（東日本大震災子ども支援ネットワーク事務局長 東洋大学）  
荒牧重人（東日本大震災子ども支援ネットワーク運営委員 山梨学院大学）

<主催> 東日本大震災子ども支援ネットワーク

<協力> 東洋大学福祉社会開発研究センター事務局：東洋大学白山校舎2号館608号森田明美研究室

TEL・FAX 03-3945-7481 E-mail : info@shinsai-kodomoshien.net